

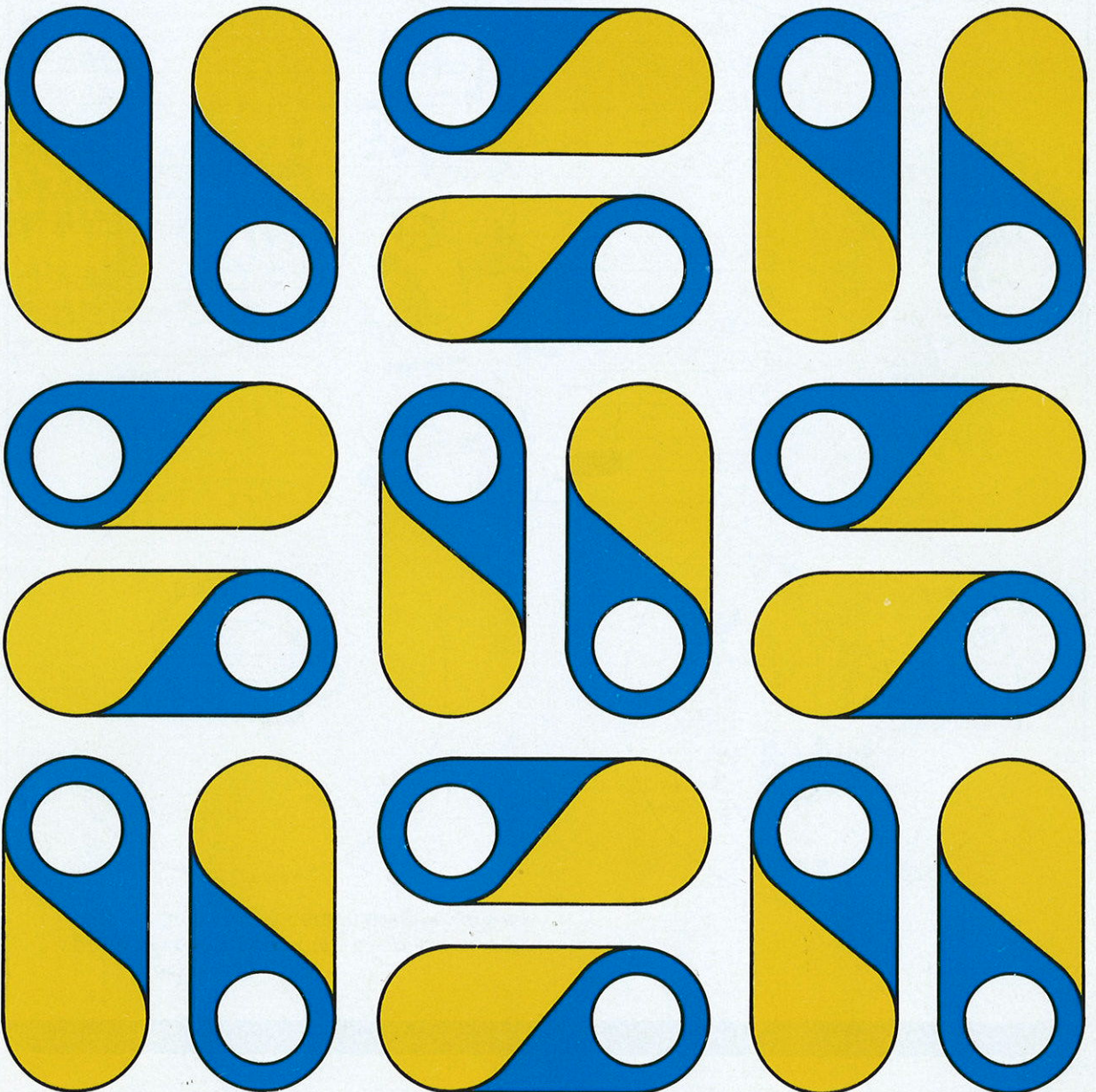
ベビーロック

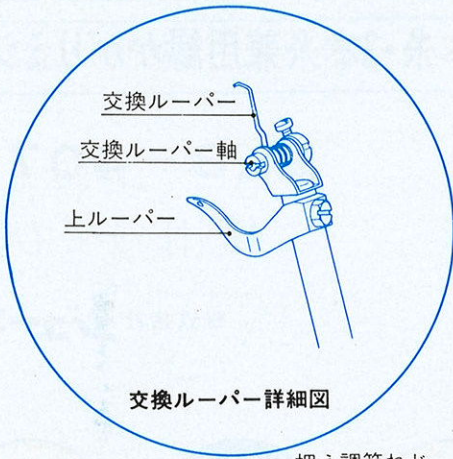
2本糸・3本糸兼用縁かがりミシン

BL3-407型

ご使用のてびき

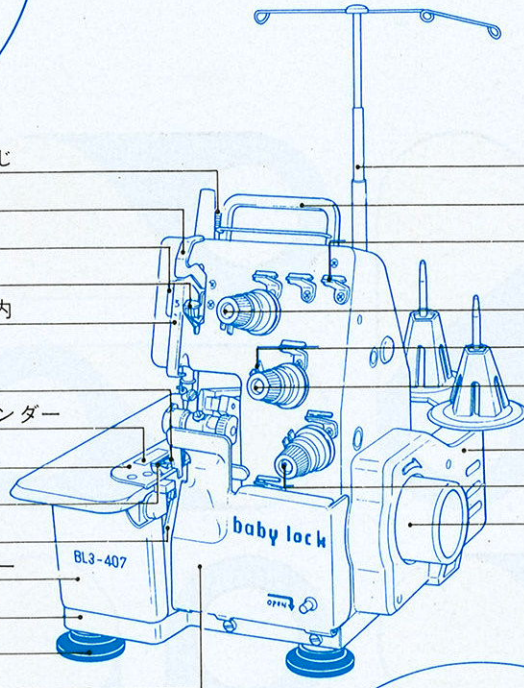
株式会社 ジューキ



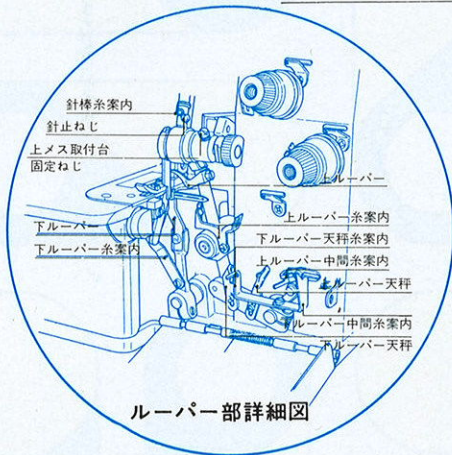


交換ルーパー詳細図

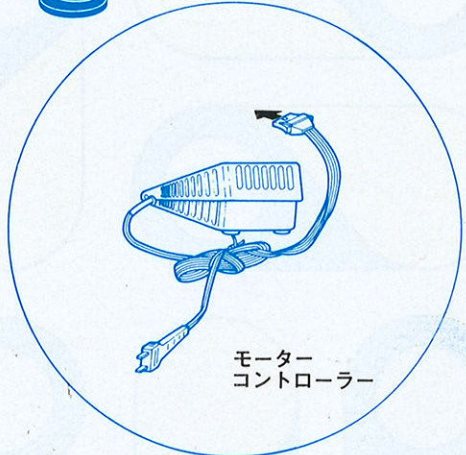
- 押え調節ねじ
- 天秤ガード
- 天秤糸掛
- 切換糸案内
- 針中間糸案内
- 上メス
- 針板ファイnder
- 針板
- 押え金
- 下メス
- 下側面カバー
- 底板
- 底板ゴム
- メスカバー



- 糸立装置
- 取手型糸案内
- 面板糸案内
- 針糸調子器
- 糸調子器糸案内
- 上ルーパー糸調子器
- ベルトカバー
- 下ルーパー糸調子器
- はずみ車



ルーパー部詳細図



※安全のため使用後は電源プラグを抜いてください。
また、コントローラーの上に物を載せないでください。

はじめに

このたびは、ベビーロックBL3-407型をお買上げくださいます、ありがとうございます。

このミシンは3本糸縁かがりと2本糸縁かがりの2つの機能を兼ねていると同時に、針受をそなえていますので、厚物から薄物までは幅広く縫えるようになっております。

この手引をよく読んで正しくお使いください。

目次

1. 縫うための準備	2
1-1 糸かけの前に	2
1-2 糸の交換	3
1-3 3本糸縁かがりのとき	4
1-4 3本糸縁かがりから2本糸縁かがりへの切換え	7
1-5 2本糸縁かがりから3本糸縁かがりへの切換え	9
1-6 糸のからみ具合の確認	10
2. 糸調子のとり方	11
2-1 3本糸縁かがりのとき	11
2-2 2本糸縁かがりのとき	12
3. 極厚物・段縫いについて	13
4. 押え圧力について	13
5. 針のとりかえ方	14
6. 送り目の調節について	15
7. かがり巾の調節について	16
8. 補助押えの調節について	17
9. メスの交換について	18
9-1 上メスの取りかえ方	18
9-2 下メスの取りかえ方	18
10. 注油について	19
11. ミシンライトをつける場合	19
12. 点検と調整について	20
13. カーボンブラシの交換について	21
14. 梱包明細	22
15. BL3-407型仕様表	22
16. 布地と糸の関連表	23
17. 巻き縫いとして使用する場合	24

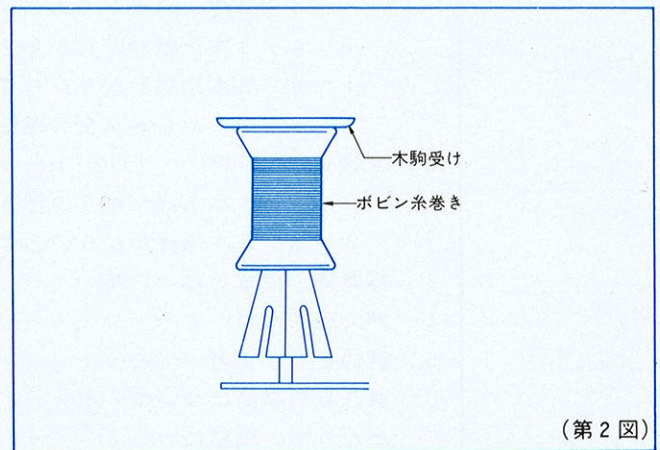
1 縫うための準備

このミシンは、ワンタッチ糸かけ方式を採用していますので、糸かけが非常に簡単になっています。また糸道が色別されていますので、それに従って正しく糸をかけてください。

1-1 糸かけの前に

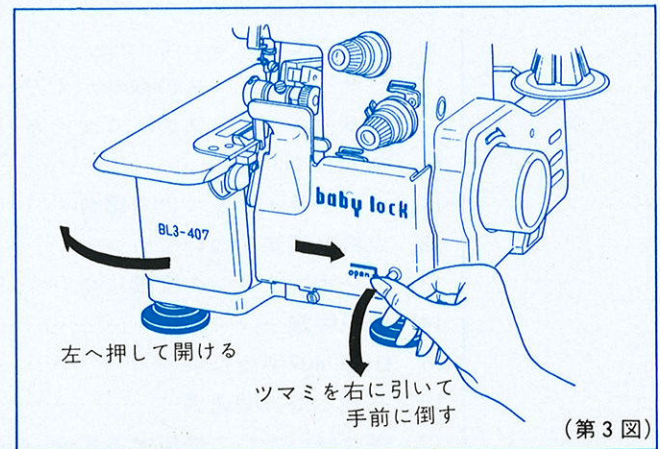
① 糸巻きのセット

このミシンには普通チーズ巻き（又コーン巻き）の糸を使いますが、ポビン巻き糸もお使いになれます。この場合「第2図」のように付属の木駒受けをポビン巻きの穴に差し込んでお使いください。



② メスカバー・下側面カバーの開け方

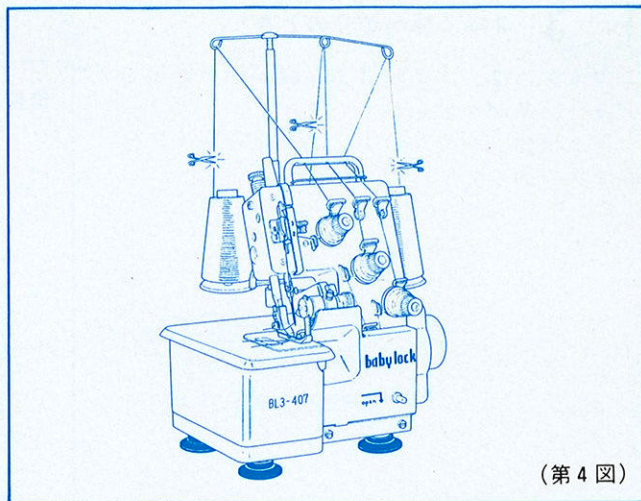
先ずメスカバーを「第3図」のようにつまみを右に引いて手前に倒してください。次に下側面カバーを左へ押して開けてください。



1-2 糸の交換

使用中の針糸、上ルーパー糸あるいは下ルーパー糸を、色糸など他の糸と交換してお使いになる場合は、次のようにしていただくと便利です。

- ①糸巻きの近辺で糸を切り、交換したい糸につなぎ変えます。(第4図参照)
- ②押え金を上げます。

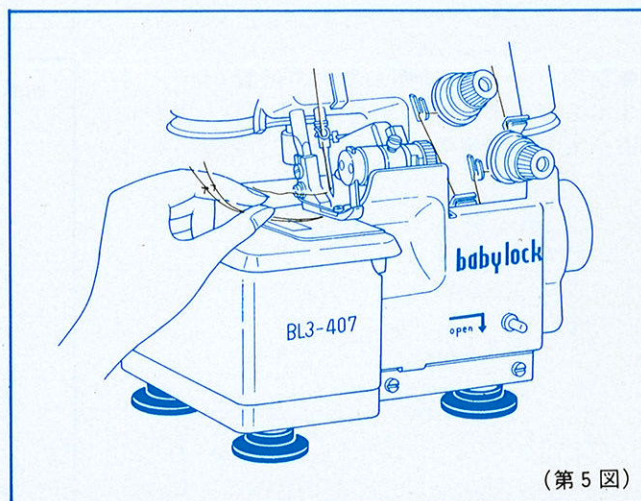


(第4図)

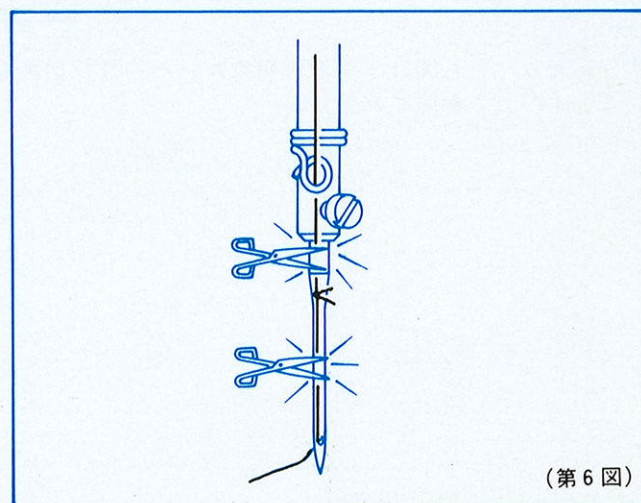
- ③糸調子皿を浮かし、糸のつなぎ目が押え金より約10cm出るまで引き出します。

(第5図参照)

ただし針糸を引き出す場合は、針を曲げない為に、つなぎ目を針穴の手前で止め、糸を切って針穴に通します。(第6図参照)



(第5図)



(第6図)

1—3 3本糸縁かがりのとき

このミシンは、出荷時3本糸縁かがりにセットされ、糸がかけられています。
セット状態、糸のかけ方、糸調子ツマミの位置は次の通りです。

交換ルーパー

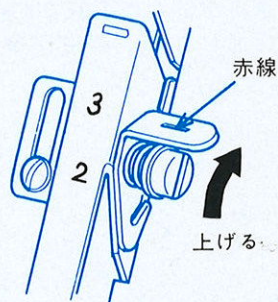


(第7図)

● 交換ルーパー・切換糸案内の位置

3本糸縁かがりのときの交換ルーパー及び切換糸案内は「第7図」「第8図」のようになります。

切換糸案内



(第8図)

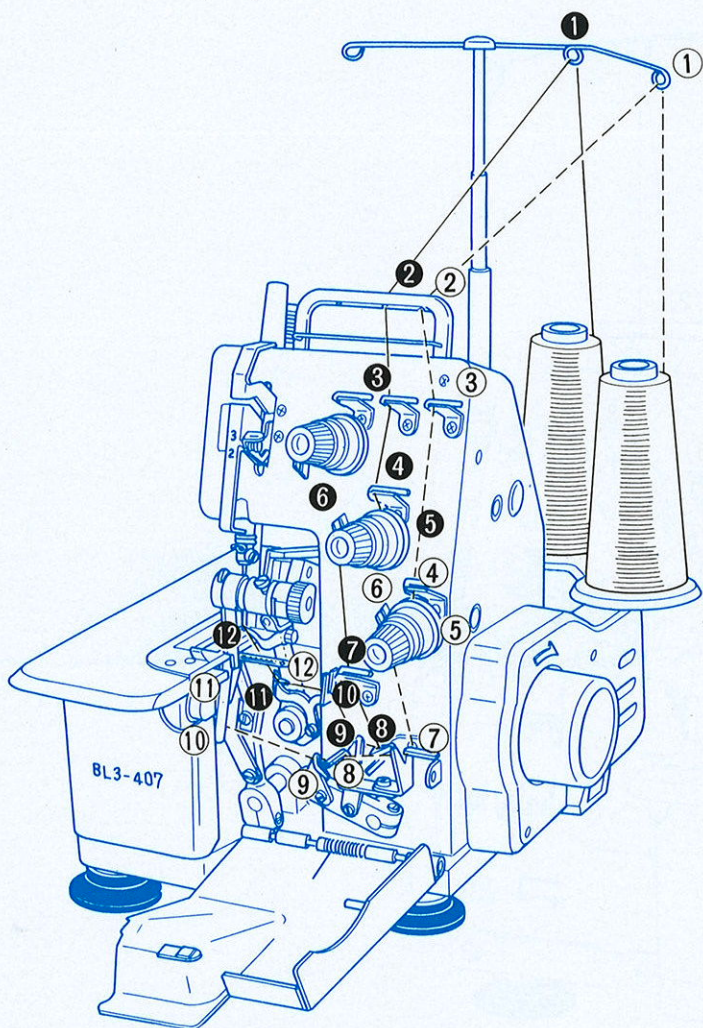
(メスカバーを開けますと、交換ルーパー及び切換糸案内の操作が貼付してありますのでご参照ください。)

●ルーパー糸のかけ方

ルーパー糸をかける場合は、次の順序で正しくかけてください。

- ①メスカバー・下側面カバーを開けます。
- ②下ルーパー糸（黄色マーク）をかけます。
下ルーパーに糸を通す場合は、はずみ車を回転方向に回し、下ルーパーをいちばん左にします。

針板ファインダーごしに、下ルーパー糸案内⑩と、下ルーパー糸穴⑪に糸を通します。次に下ルーパーをいちばん右にして、下ルーパー糸穴⑫に糸を通します。下ルーパー糸は、押え金の下から約10cm引き出しておきます。（第9図、第10図参照）



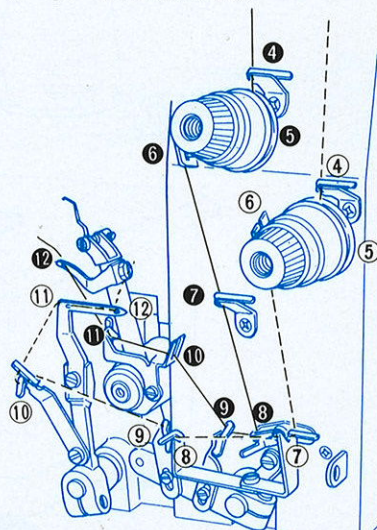
(第9図)

- ③上ルーパー糸（桃色マーク）をかけます。
上ルーパー糸は、押え金の下から約10cm引き出しておきます。
（第9図、第10図参照）

- ④メスカバー・下側面カバーを閉めます。
（下側面カバーを開けますと、糸かけ案内シールが貼付してありますのでご参照ください。）

※裁縫中に下ルーパー糸が切れて、直し直しをする場合は針糸を針穴から抜いて行って下さい。

ルーパー部の糸のかけ方

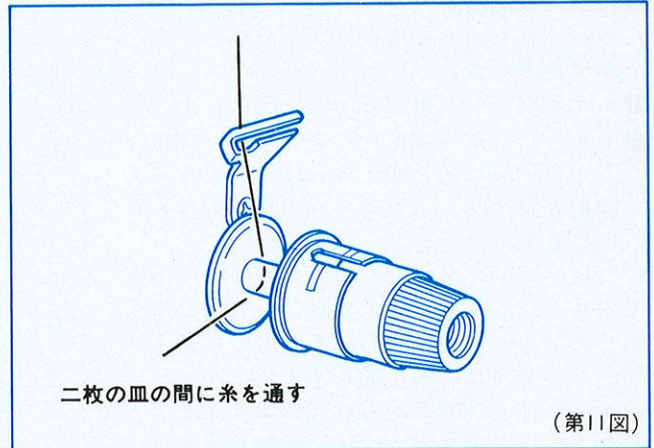


(第10図)

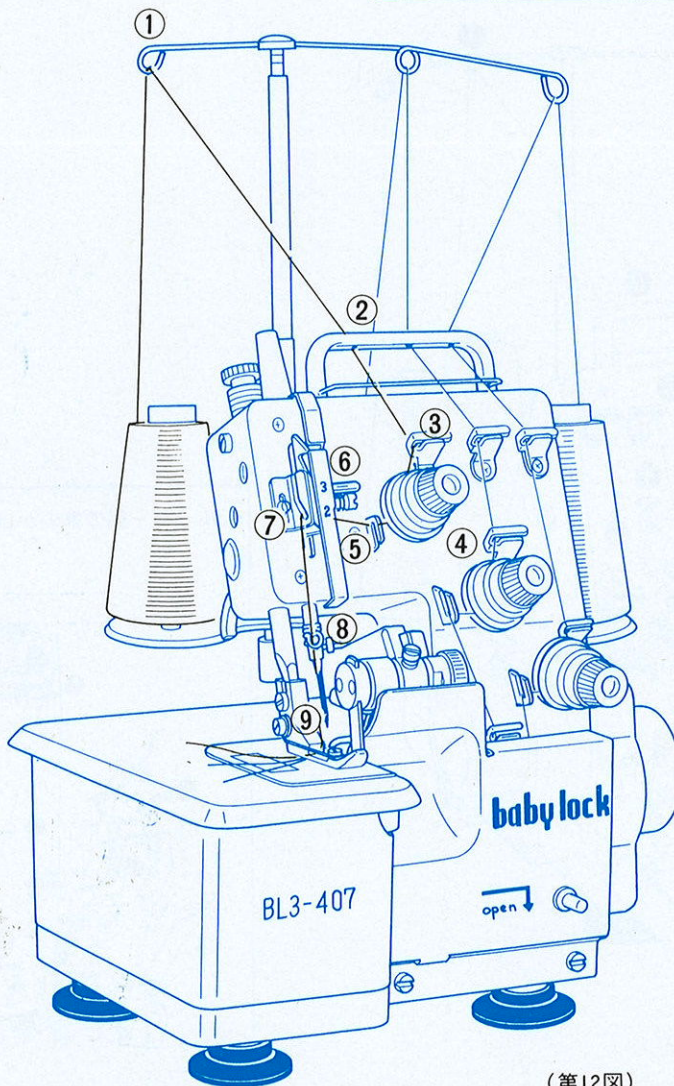
●針糸のかけ方

針糸（青色マーク）をかける場合は、「第11図」「第12図」のように正しくかけてください。針穴には手前側から向こう側（エグリ部）に通して、押え金の下から約10cm引き出しておきます。

※第12図の⑥⑦の糸掛けの際針最下点の状態で行うと糸掛けが楽になります。



(第11図)

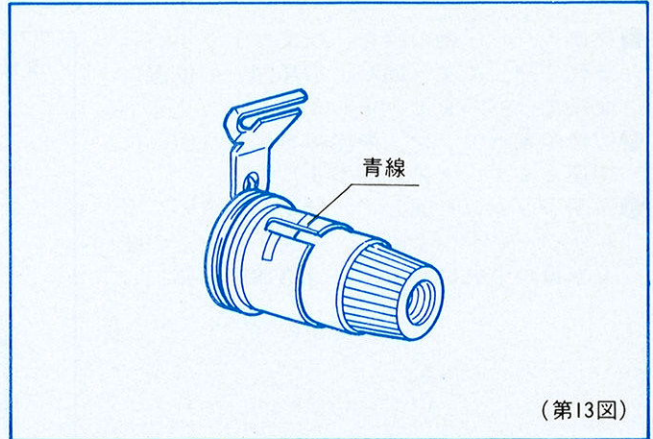


(第12図)

●糸調子ツマミの位置

3本糸縁かがりの場合は、各糸調子ツマミの端は、青線の中になります。

(第13図参照)

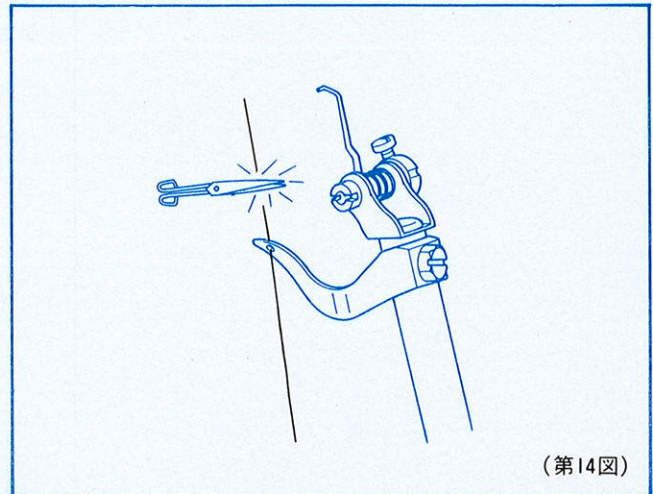


(第13図)

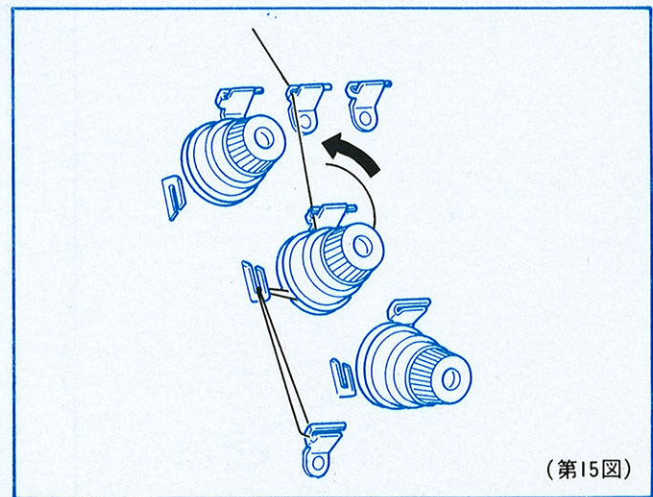
1—4 3本糸縁かがりから2本糸縁かがりへの切換え

3本糸縁かがりから2本糸縁かがりにするときは、次の順序で正しく行ってください。

- ①はずみ車を回転方向に回し、針をいちばん下にします。
- ②上ルーバー糸を「第14図」のように切り、その端を「第15図」のように上ルーバー糸調子器にはさみます。

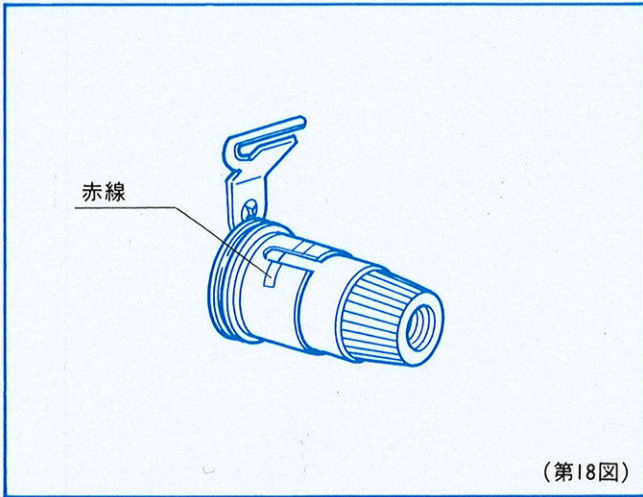
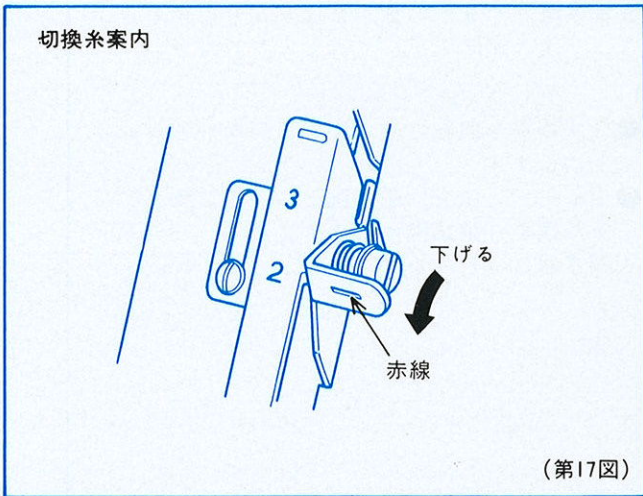
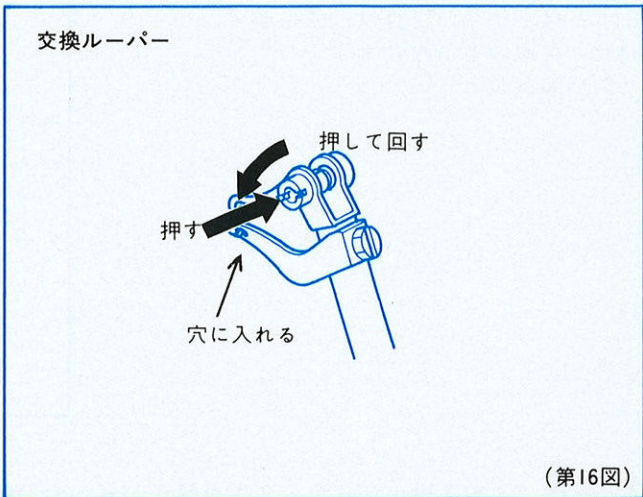


(第14図)



(第15図)

- ③ 交換ルーパー軸の端を、指又はドライバーで軽く押して左へ回し、「第16図」の位置に交換ルーパーをセットします。
- ④ 切換糸案内のつまみの赤線を「2」(赤)に切換えます。(第17図参照)
- ⑤ 糸調子つまみを回して、針糸をゆるめ、下ルーパー糸をつよめて、糸調子つまみの端を赤線の中央にします。(第18図参照)



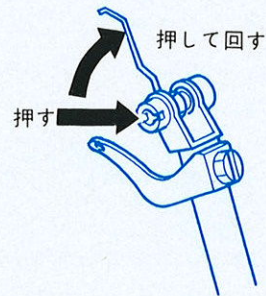
1—5 2本糸縁かがりから3本糸縁かがりへの切換え

2本糸縁かがりから、3本糸縁かがりにもどすときは、次の順序で正しく行なってください。

- ①はずみ車を回転方向に回し、針をいちばん下にします。
- ②交換ルーバー軸の端を、指又はドライバーで軽く押して回転しなくなる迄右へ回し、「第19図」の位置にします。

交換ルーバーが、途中でセットされていますと、トラブルの原因となりますので、途中でとめないでください。

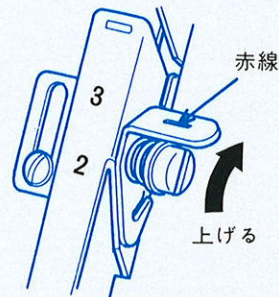
交換ルーバー



(第19図)

- ③切換え糸案内のツマミの赤線を「3」(青)に切換えます。(第20図参照)
- ④「第9図」、「第10図」に従がい上ルーバー糸をかけます。
- ⑤糸調子ツマミを回して、針糸をつよめ、下ルーバー糸をゆるめて、糸調子ツマミの端を青線の中央にします。(第13図参照)

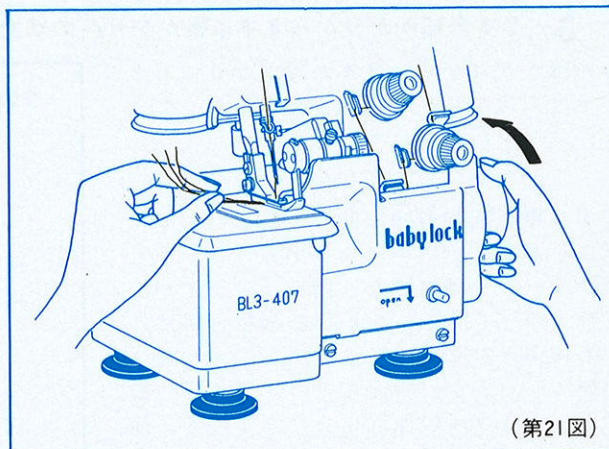
切換え糸案内



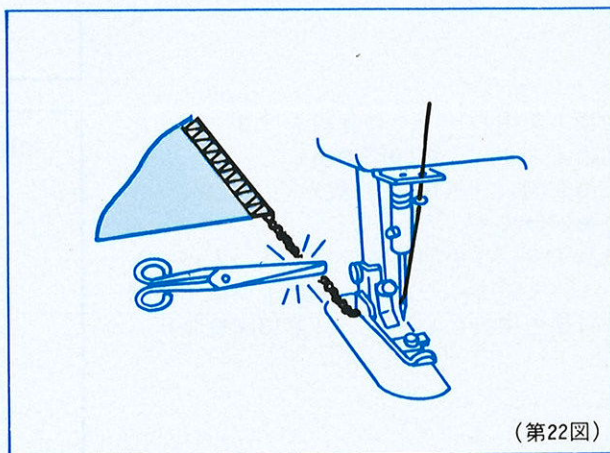
(第20図)

1—6 糸のからみ具合の確認

- ①糸かけの終わった糸の先端を「第21図」のように左手指で少し張りぎみにしてつまみ、右手ではずみ車を回転方向に回して糸のからみぐあいを確かめ、それから布地をセットして縫いはじめてください。
- ②糸のバランスが悪いと、布地にしわができたり、縫い目が不揃いになることがあります。「糸調子のとり方」の項を参照してください。
- ③縫い終わりは「第22図」のように布地の端から空縫いを2～5cm長くとり、切断してください。



(第21図)



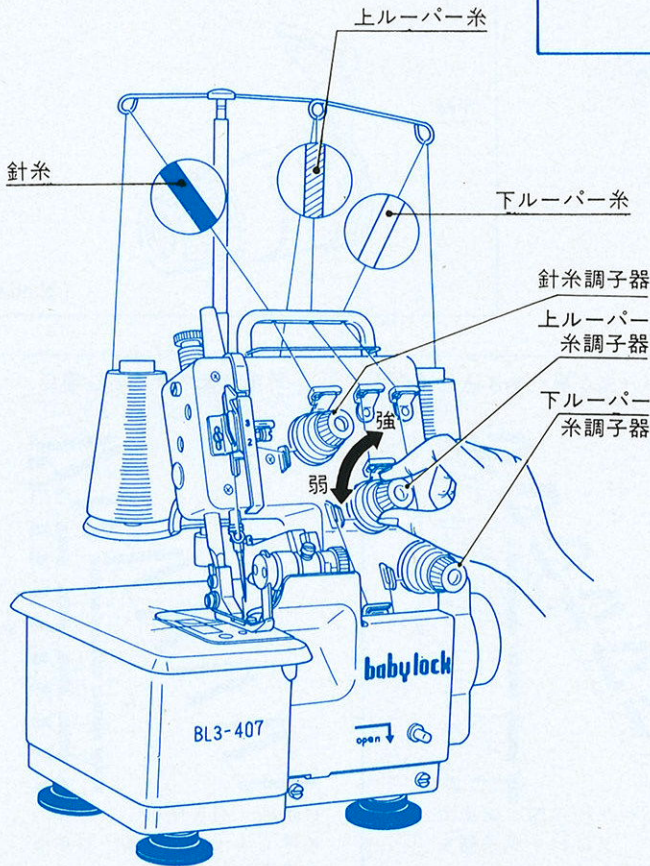
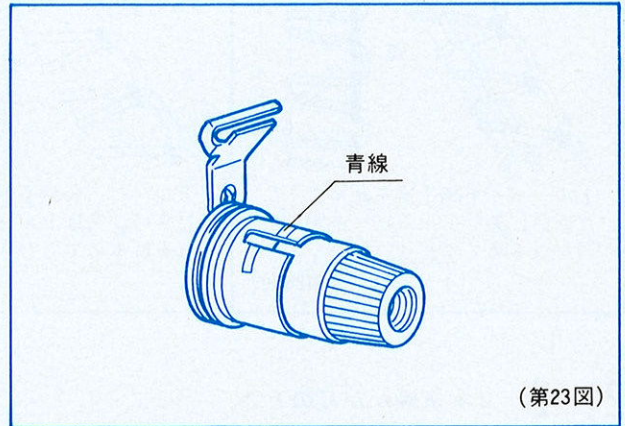
(第22図)

2 糸調子のとり方

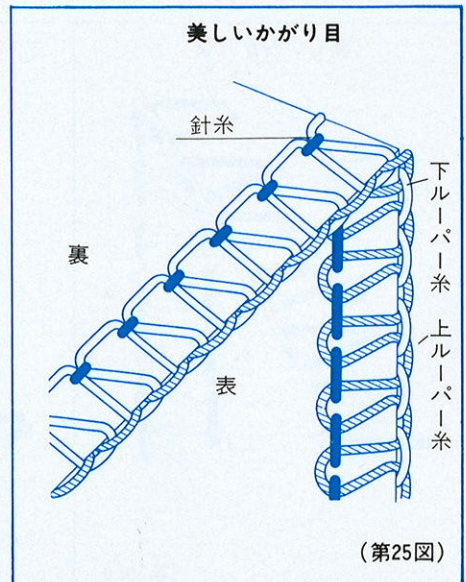
糸調子のとり方は3本糸縁かがりと2本糸縁かがりでは違います。
 また布地の種類や使用糸の太さ、種類によっても違います。
 そのつど縫い目を見ながら各糸調子器で調節してください。

2-1 3本糸縁かがりのとき

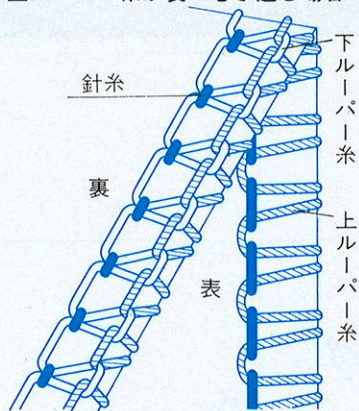
「第23図」のように各糸調子ツマミの端が青線中にあるときが3本糸の標準縫い調子です。
 まず、3つの糸調子器を青線の中央に合わせてから、縫い目を見て微調整してください。
 「第25図」のようになれば完全です。



(第24図)



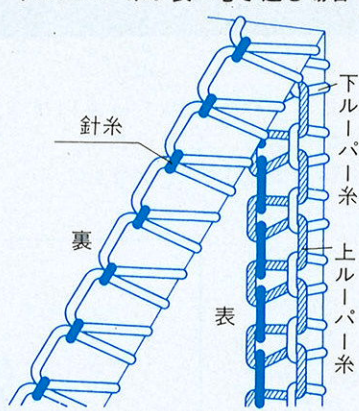
上ルーパー糸が裏へ巻き込む場合



上ルーパー糸調子器を締めてください。又は下ルーパー糸調子器をゆるめてください。

(第26図)

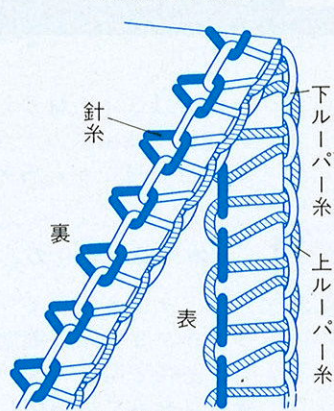
下ルーパー糸が表へ巻き込む場合



下ルーパー糸調子器を締めてください。又は上ルーパー糸調子器をゆるめてください。

(第27図)

針糸が浮く場合



針糸調子器を締めてください。又は上ルーパー糸調子器と下ルーパー糸調子器をゆるめてください。

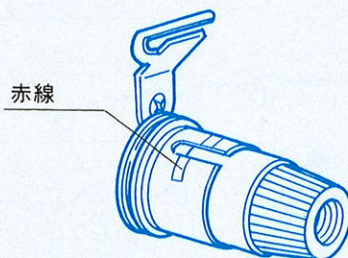
(第28図)

2-2 2本糸縁かがりのとき

「第29図」のように各糸調子ツマミの端が赤線中にあるときに、2本糸の標準縫い調子です。

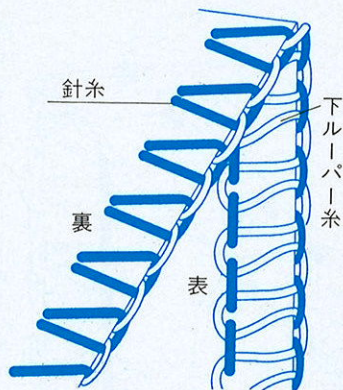
まず、2つの糸調子器を赤線の中央に合わせしてから縫い目をみて微調整してください。

「第30図」のようになれば完全です。



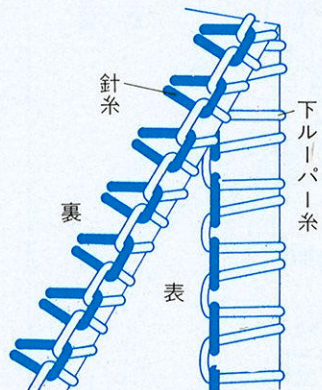
(第29図)

美しいかがり目



(第30図)

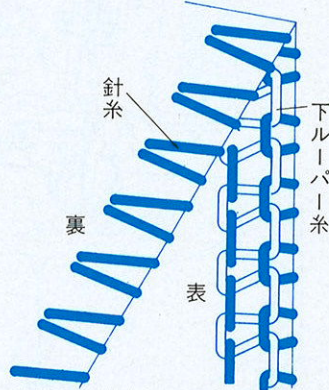
下ルーパー糸が裏へ巻き込む場合



下ルーパー糸調子器を締めてください。又は針糸調子器をゆるめてください。

(第31図)

針糸が表へ巻き込む場合



針糸調子器を締めてください。又は下ルーパー糸調子器をゆるめてください。

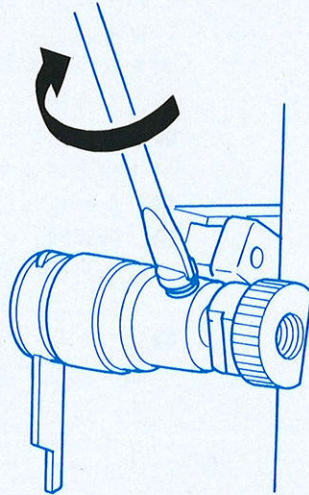
(第32図)

3 極厚物・段縫いについて

このミシンは、薄物から厚物まで、はば広く縫えるようになっていますが、極厚物、段縫いときは「第33図」のように上メス取付台固定ねじを締めてください。

注意

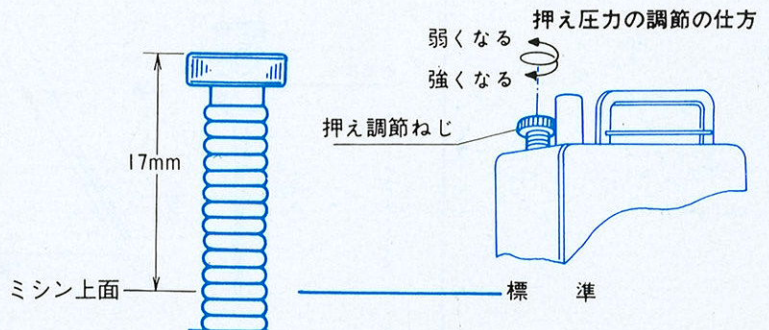
- 通常縫いや薄物縫いの場合は、このねじを締めますと、メス切れが悪くなりますので、ゆるめてお使いください。
- 上メス最下点にてロックネジを締めて下さい。



(第33図)

4 押え圧力について

このミシンはすでに押え圧力を標準（中厚物用）に調節してあります。極薄物、極厚物の場合のみ調節してください。薄い生地には押え圧力を弱くし、厚い生地には押え圧力を強くします。

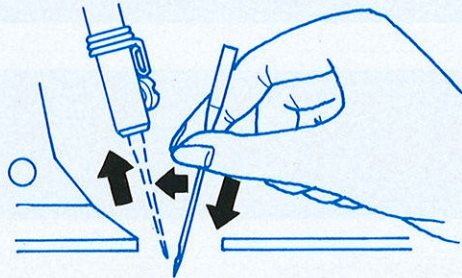


(第34図)

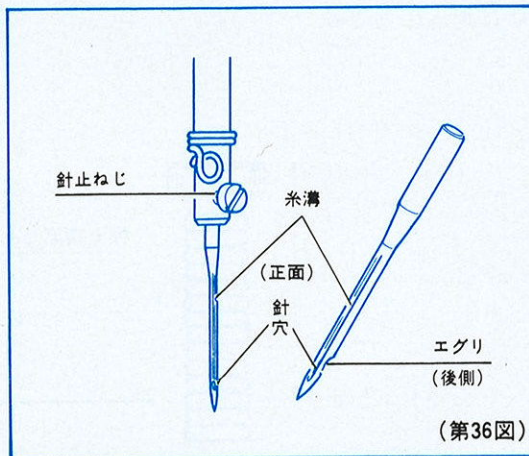
5 針のとりかえ方

このミシンの針はDC×1 #7から#14を用います。
針をとりかえるには次の順序で正しく行なってください。

- ①はずみ車を回転方向に回して針をいちばん上にあげます。
- ②針止めねじをゆるめて針をはずします。
- ③「第35図」のように新しい針の針先を押え金の針落に差しこみ、それから針棒の針穴に差しこみます。
- ④針のとりつけ向きは「第36図」のように正面から見てエグリが後ろになるようにします。
(後ろ側にも糸溝がありますのでご注意ください。)
- ⑤針の向きが狂わないように針を手でしっかり押えて針止めねじを固く締めつけます。



(第35図)



(第36図)

6 送り目の調節について

送り目の調節は下側面カバーを開いて行います。

送り目の調節は送り目調節固定ねじと、はずみ車はいっしょに回りますので、次の順序に従って調節して下さい。

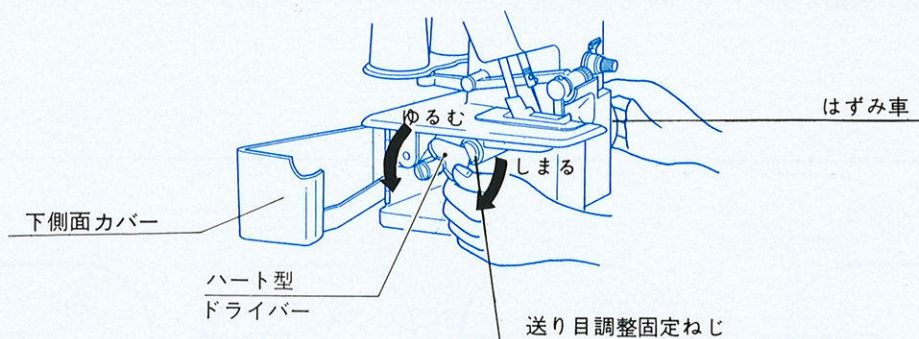
①右手ではずみ車をにぎり、動かないように固定する。左手でハート形の専用ドライバーを使って、送り調節固定ねじをゆるめて下さい。

ハート形ドライバーを矢印方向に回すと固定ねじはゆるみます。

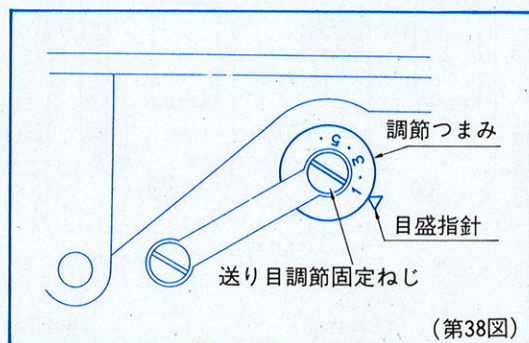
②次に、調節つまみの目盛りを目盛指針に合わせて下さい。

つまみ目盛りの数字が大きくなるほど、縫い目は大きくなります。

③調節が終わったら、送り目調節固定ねじを締めて下さい。



(第37図)

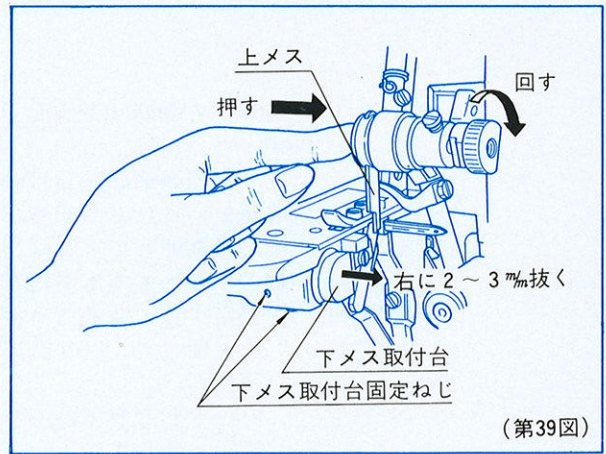


(第38図)

7 かがり巾の調節について

このミシンは標準かがり巾3.5mmにセットしてありますが必要に応じて2.5mm～5mmに簡単に変わることができます。その場合は次の順序で正しくセットしてください。

- ①はずみ車を回転方向に回して針をいちばん上にします。
- ②メスカバーと下側面カバーを開きます。
- ③「第39図」のように上メスを押して回し、上にあげます。
- ④下メス取付台固定ねじ（2本）をゆるめ下メス取付台を右に2～3mm動かします。
- ⑤かがり巾調節ねじをゆるめ針板爪を希望のかがり巾にセットします。このとき、かがり巾指示数字の横の丸印を針板の端と合わせてください。

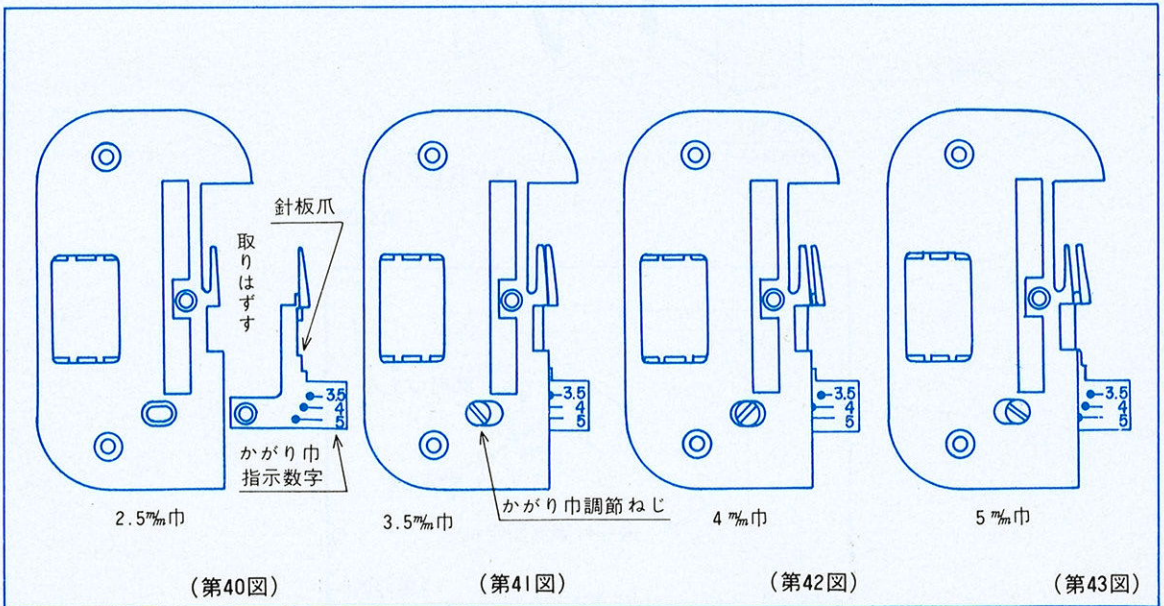


(第39図)

2.5mmのかがり巾のときは針板爪を取り外します。(第40図～43図参照)

- ⑥下メス取付台を針板爪のくぼみにセットし、下メス取付台固定ねじを締めつけます。この場合必ず下メスと針板上面が同一になるように固定します。(第45図参照)
- ⑦上メスを手前に回してセットします。

※かがり巾の調節が終わったらはずみ車を回して上ルーパーが他の部品にあたらないことを確認してください。



(第40図)

(第41図)

(第42図)

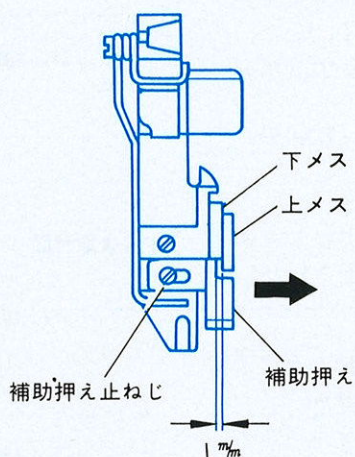
(第43図)

8 補助押えの調節について

かがり巾の調節においてかがり巾を 4mm 以上にした場合には補助押えの調節も行なって押え巾を広げてください。

その場合は補助押え止ねじをゆるめ補助押えを右へ移動させますが、補助押えと上メスの隙間は 1mm ほど開けておきます。

(かがり巾が 4mm より狭い場合は補助押え)の調節は必要ありません。



※かがり巾を広い方から狭い方へ戻す場合には補助押えも必ず元に戻す事を忘れないでください。

9 メスの交換について

はじめに必ず電源プラグを抜いてから作業してください。

メスは消耗品ですので切れなくなったら交換してください。

メスが切れなくなった場合通常下メスを交換してください。

8-1 下メスの取りかえ方

上メスがいちばん上った位置で行って下さい。

① 下メス補助ねじを左に45度(1/8回転)回して、下メスの押し付けを解除します。

(第45-1図)

② 次に下メス取付板止ねじをゆるめて下メスを下に抜きます。(第45-1図)

③ 新しい下メスを下メス取付台のメス溝に合わせて、下から上に差し込み、下メス刃先が針板上面と同じ高さになるようにして、下メス取付板止ねじを締めつけます。(第45-2図)

④ 次に下メス補助ねじを右に45度(1/8回転)回して、下メスを押し付けます。

(第45-2図)

※下メス補助ねじ、下メス取付板止ねじ、共に付属のドライバーで操作して下さい。

8-2 上メスの取りかえ方

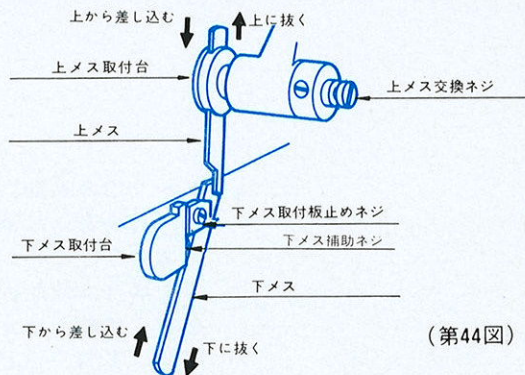
(上メスは長寿命の特殊な材質が使われていますので通常交換の必要はありません。)

上メスがいちばん下った位置で行なってください。

① 上メス交換ねじをゆるめて、上メスを上に抜きます。(第44図参照)

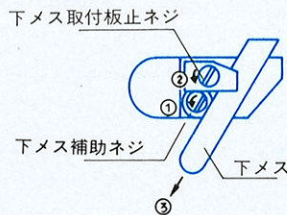
② 新しい上メスを上メス取付台上から差し込みます。

③ 上メスの手前刃先が下メス刃先位置に対して1mmでいど噛み合うように位置決めし、上メス交換ねじを締めつけます。(第46図参照)



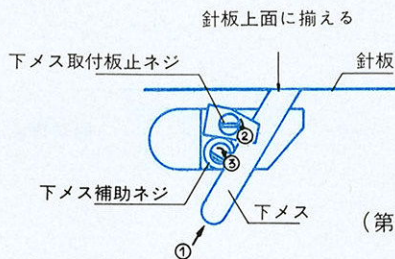
(第44図)

下メス取りはずし図



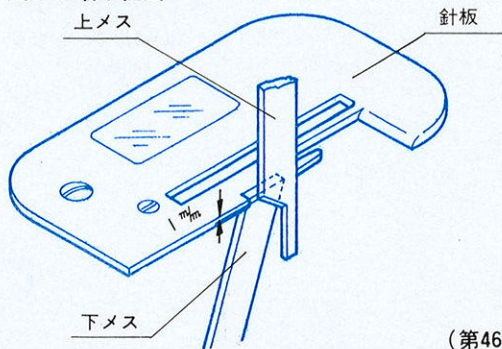
(第45-1図)

下メス取付図



(第45-2図)

上メス最下位図



(第46図)

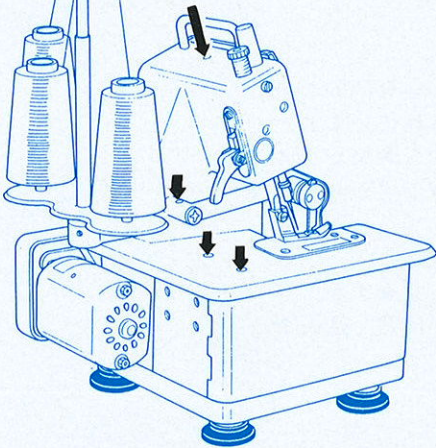


※メスの購入先
ミシン店又は

このマークのお店で
お求めください。

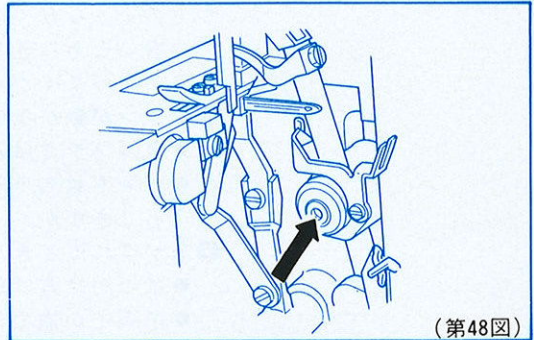
10 注油について

(この箇所のみ20~30滴)
注油して下さい。



(第47図)

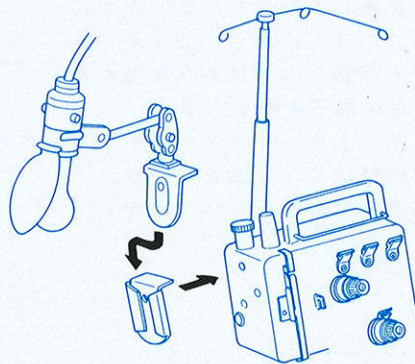
このミシンの大切な個所にはすべて特殊な材料(含油メタル)を用いておりますので、ほとんど給油の必要はありません。しかし「第47図」「第48図」に示したような個所に1~2滴注油しますとより耐久性が向上します。



(第48図)

11 ミシンライトをつける場合

ライトをお使いになる場合は市販されているミシンライトを「第49図」のように取り付けてください。



(第49図)

12 点検と調整について

このベビーロックは、むずかしい専門的な調整をしないですむように設計されています。つぎのような5つの例は基本的な調整ができていないときに起りやすい故障ですからよく覚えておいてください。

① ミシンが動かないとき

- 電源プラグは差し込んでありますか。
- コントローラーのソケットは差し込んでありますか。

② 糸が切れるとき

- 糸のかけ方は正しいですか。
- 糸調子が強すぎませんか。
- 針が曲がっていませんか。
- 針受に傷がついていませんか。
- 押えの強さは適当ですか。
- 糸の種類はどうですか。
- 針の種類や取り付け方がまちがっていませんか。

③ 針が折れるとき

- 針が針板、針受、押えなどにぶつかっていませんか。
- 針の種類や取り付け方がまちがっていませんか。

④ 目とびするとき

- 針が曲っていたり、針先がすり減ったりしていませんか。
- 針を正しく取りつけましたか。
- 糸のかけ方は正しいですか。
- 押えが弱いではありませんか。

⑤ 縫い目の調子が悪いとき

- 針糸・上ルーパー糸・下ルーパー糸の張力調整はじゅうぶんですか。
- 糸のかけ方は正しいですか。

13 カーボンブラシの交換について

このマシンに使用しておりますモーターにはカーボンブラシが2個(2ヵ所)取り付けられています。長期間お使い頂くと、摩耗しますから、「第50図」のようにカーボンブラシを交換してください。

①交換の時期

摩耗によりカーボンブラシ図のようにブラシ部分が3mm程度になりましたら交換してください。

②交換の方法

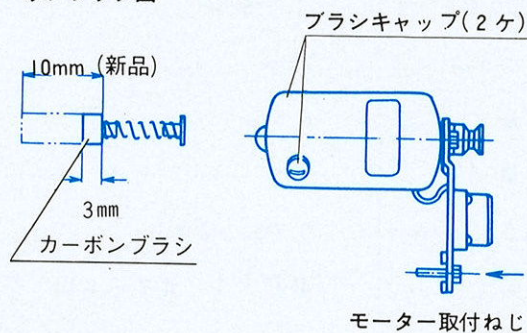
最初にモーターを取り外します。

次にモーターのブラシキャップを各々取り外し新しいブラシと交換してください。

[注意]

摩耗したブラシをそのまま使っていますとモーターから火花が出たり、又モーター故障の原因になりますからご注意ください。

カーボンブラシ図



(第50図)

※カーボンブラシの購入先
マシン店又は、電気器具店でお求めください。

14 梱包明細

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1. ミシン (モーター付) | ・ 針糸通し |
| 2. ペダルセット一式 | ・ 油差し |
| 3. ビニールカバー | ・ ハート型ドライバー(送り目調節用) |
| 4. ご使用のてびき | ・ 木ゴマ受け |
| 5. 保証書 | ・ ベビーネット |
| 6. アクセサリー・ボックス | ・ 飾り縫いガイド |
| | ・ ラクラク糸通し |
| | ・ 巻ロック用針板 |
| | ・ ドライバー (マイナス用) |
| | ・ 針 DC×1 |
| | ・ 下メス |
| | ・ ピンセット |
| | ・ 掃除用ブラシ |

15 BL3-407型仕様表

基本項目	仕様
かがり巾	標準 3.5 ^{m/m} (2.5~5 ^{m/m})
縫い目(送り目)	1~5 ^{m/m}
針棒ストローク	25 ^{m/m}
メス上下量	6.5 ^{m/m}
押え上り量	5 ^{m/m}
送り歯高さ	0.7 ^{m/m} (標準)
使用針	DC×1 #7~#14, シュメッツ621
使用糸本数	3本、2本
給油方式	油芯装置付手差方式
ミシンの大きさ	タテ 250 ^{m/m} ヨコ 250 ^{m/m} 高さ 280 ^{m/m}
ミシンの重さ	8 kg (モーター付完成品)

16 布地と糸の関連表

	布 地 の 種 類	糸	針
木 綿 麻	〔薄地〕 ボイル、ローン、ブロード、ギンガム、亜麻など	テトロン #100 スパン #90~80	DC #7~11
	〔厚地〕 オックスフォード、デニム、キルディング、ギャバジンなど	スパン #90~60 綿 #80~60	DC #11 #14
絹	デシン、クレープ、オーガンジー、サテンなど	絹 #100 テトロン #100	DC #7~11
毛	〔薄地〕 トロピカル、ポーラ、ポプリンなど	スパン #90 綿 #80 テトロン #80	DC #11
	〔普通地〕 サージ、ギャバジン、フラノなど	スパン #90~60 テトロン #80~60 絹 #50	DC #11 #14
	〔厚地〕 ベロア、キャメル、アストカンなど	スパン #60 綿 #60~50 テトロン #60~50 絹 #50	DC #14
化 織 合 織 混 紡	〔薄地〕 ジョーゼット、ボイル、サテンなど	スパン #90 テトロン #100	DC #11
	〔厚地〕 タフタ、ツイル、ベネシャンなど	スパン #90~60 テトロン #60	DC #11 #14
ニット	トリコット (化織、合織)	スパン #90 テトロン #80~60	DC #9~11
	ジャージ (化織、合織)	スパン #60 テトロン #60 ウーリー糸(ナイロン、テトロン)	DC #11 #14
	毛糸	スパン #60 テトロン #60~50 ウーリーナイロン ウーリーテトロン 極細毛糸	DC #14

17

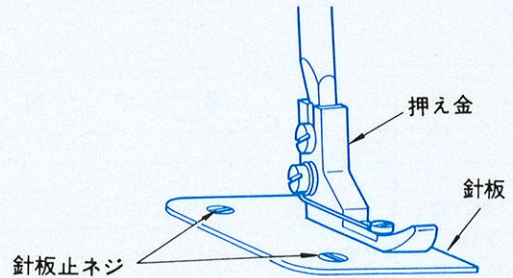
巻き縫いとして使用する場合

- 普通ロック用の針板を巻きロック用針板と交換すると、巻き縫いとしてご使用頂けます。
- 交換は次の順序で行って下さい。

17-1 交換の仕方

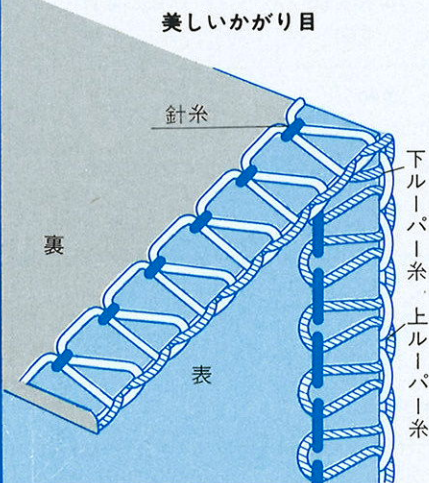
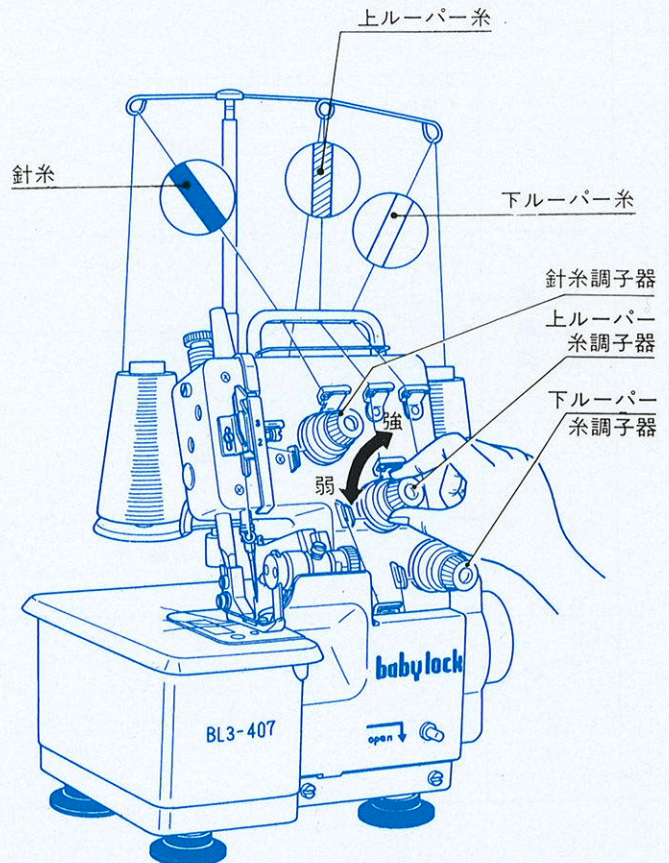
※針棒がいちばん上に上った位置で行って下さい。

- ①押え金はずします。
- ②メスカバー台、下側面カバーを開きます。
- ③下メス取付台固定ネジ2本をゆるめ、下メス取付台を上メスと共に右に動かします。(かがり巾調節項を参照して下さい)
- ④針板止ネジをゆるめて普通ロック用針板はずします。
- ⑤付属の巻きロック用針板を針板止ネジで取付けます。
- ⑥下メス取付台を左に寄せ、針板に密着させて、固定ネジ2本で固定します。その場合、必ずメス上端と針板上面が同一になる様にして下さい。
- ⑦押え金を取り付けます。
- ⑧送り目を1~1.5mm位にします。
- ⑨メスカバー台、下側面カバーを閉めます。

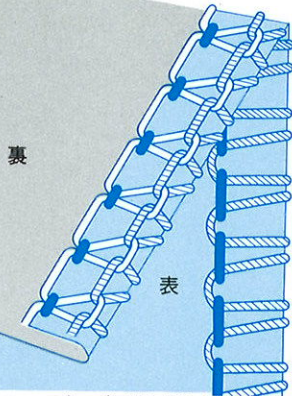


17-2 標準巻きロックの場合

糸調子のとり方は、布地の種類や使用糸の太さ、種類によって違います。そのつど縫いたい目を見ながら、3つの糸調子器で調節して下さい。



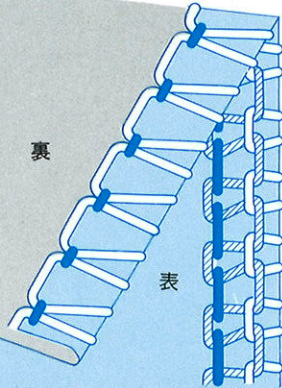
上ルーバー糸が弱い場合



裏
表

上ルーバー糸調子器を締めてください。
又は下ルーバー糸調子器をゆるめてください。

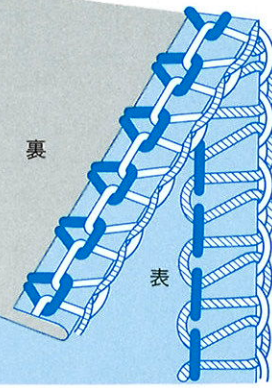
下ルーバー糸が弱い場合



裏
表

下ルーバー糸調子器を締めてください。
又は上ルーバー糸調子器をゆるめてください。

針糸が弱い場合



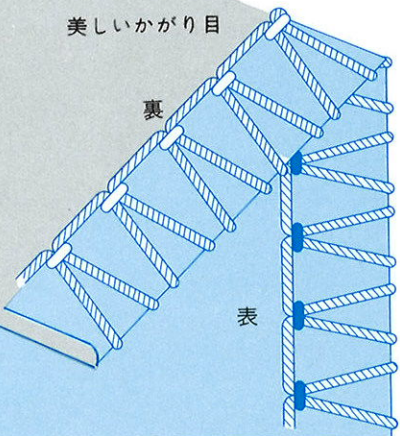
裏
表

針糸調子器を締めてください。
又は上ルーバー糸調子器と下ルーバー糸調子器をゆるめてください。

17-3 変形巻きロックの場合

このミシンの巻きロックは、標準の縫い目と上ルーバ糸が巻き込んだ変形の縫い目の2通りの縫い方が、できます。

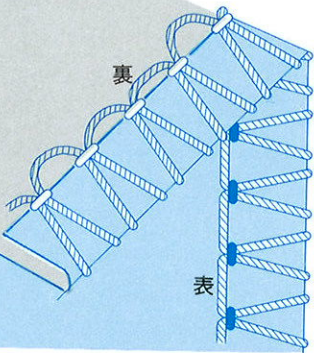
美しいかがり目



裏

表

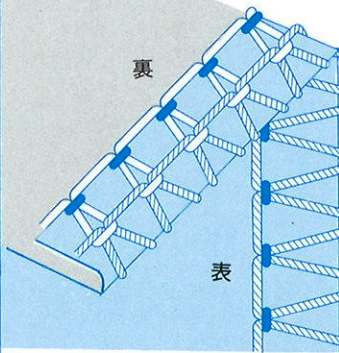
上ルーバー糸が弱い場合



裏
表

上ルーバー糸調子器を締めてください。

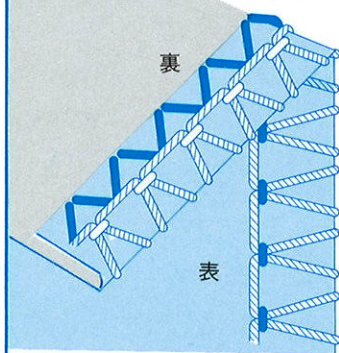
下ルーバー糸が弱い場合



裏
表

下ルーバー糸調子器を締めてください。
又は上ルーバー糸調子器をゆるめてください。

針糸が弱い場合



裏
表

針糸調子器を締めてください。
又は上ルーバー糸調子器と下ルーバー糸調子器をゆるめてください。

※都合により使用書の内容を一部変更する場合があります。

061019832000Y

